

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2014 のご案内

日時：2014年10月1日(水) 10:00～16:45, 受付開始 9:30.

場所：JAビル32階 3202・3203会議室(東京都千代田区大手町1-3-1)

<http://www.zennoh.or.jp/about/group/index.html>を参照下さい。東京メトロ大手町駅：地下1階にてC2b出口が直結、東京メトロ竹橋駅：4出口から徒歩3分、JR東京駅：丸の内出口から徒歩15分。

参加申し込み：下記事務局に8月27日(火)までに電子メールにてお願いします。申し込みをされた方には講演要旨をダウンロード(PDF)できる方法を電子メールでご案内しますので、印刷して当日ご持参ください。なお、今回は会場規模の関係で、事前申し込みの段階で定員になり次第締め切らせて頂きます。また、JAビル入館にご所属・ご氏名の事前登録が必要な関係から、開催当日のお申し込みでは入館できない場合がありますので、上記要領でお早目にお申し込み下さい。

入館受付：EBC研究会専用受付(JAビル1階総合受付の横)で所属・氏名を告げて入館用のセキュリティカードを受け取ってゲートを通過し、エレベーターにて32階会議室へお上がり下さい。

参加受付：32階会議室(ワークショップ会場)にて受付いたします。参加費および懇親会費(参加される場合)を受付時に徴収させていただきますので、予めご用意願います。

参加費等：参加費 2,000円(ただし、学生は1,000円)、懇親会費 5,000円程度

懇親会：大手町近辺にて17:15より予定しております。参加をご希望の方は、参加申し込み時にお申し出下さい(定員になり次第締め切らせて頂きます)。

プログラム

10:00 開 会

第一部 統計解析

10:00～11:30 防除試験における統計解析～我々を悩ます「変数変換」、「発病度」、「反復」の意味とは～
田代 暢哉(佐賀県上場営農センター)、川口 章(岡山県農林水産総合センター農業研究所)

室内試験や圃場試験データの適切な統計解析は必須ながら「この解析は本当にこれで良いのか？」と悩んだ経験があると思います。昨年度行ったアンケートの結果から皆さんが持つ疑問点を取り上げ、事例を挙げて解説します。また、圃場試験データを国際誌に論文投稿する時のポイントも紹介します。

――昼食――

第二部 招待講演：農業生産現場に活用が期待される今話題の研究

12:30～13:15 葉面濡れ時間に対する地上部糸状菌病感染応答のモデル化とその使い途 ～ネギさび病を例に～
古屋 廣光(秋田県立大学生物資源科学部)

葉面の濡れ時間は糸状菌病の感染成否に決定的な影響を与えます。これをモニタリングすることで感染に好適な気象を検出することが可能です。気象観測によって病気が急増する時期を圃場単位で推定することができます。ここではそのために必要な標記のモデル化とその使い途の一端を紹介します。

13:15～14:00 科学的根拠に基づく現実的な殺虫剤抵抗性対策のために

鈴木 芳人(元中央農業総合研究センター)・高橋 智(奈良女子大学理学部)

殺虫剤抵抗性問題は持続的害虫管理を目指すIPMの最大の弱点です。しかも長年にわたり、根拠のない抵抗性対策が流布してきました。防除圧の低減やローテーション防除などが抵抗性を助長する危険性と背中合わせであることを、抵抗性発達原理を踏まえて検証した結果を紹介します。

14:00～14:45 **ナス半身萎凋病を抑制する輪作体系とメタアナリシスによる評価**
池田 健太郎（群馬県農業技術センター）
全国のナス生産地で問題となっている半身萎凋病が、ブロッコリーと輪作することで抑制できることを明らかにしました。ここでは、メタアナリシスを使った発病抑制効果の評価と、その作用機作について紹介します。

14:45～15:30 **“サーモシード” 水稻種子伝染性病害に対する防除効果と全農の取り組み**
中村 亘宏（JA 全農）
高温加湿空気を用いた種子消毒技術である“サーモシード”は、海外では麦類および水稻において普及している技術です。本会は本技術の特許を保有するインコテック社と日本への導入に向けて検討をすすめています。本演題では、本技術の概要、水稻種子伝染性病害に対する防除効果および本会の取り組みについて紹介します。

—休憩—

第三部 ショートトーク：病害防除研究への問題提起，先進事例の速報

15:45～16:00 **夏秋雨よけ栽培トマトで発生するトマトすすかび病の伝染環解明の試み～空間分布解析の応用～**
桐野 菜美子（岡山県農林水産総合センター農業研究所）

16:00～16:15 **トマトすすかび病の発生状態を知るためには、どこを何株調査すればよいのか？**
鈴木 啓史（三重県農業研究所）

16:15～16:30 **ナシ黒星病の秋期防除時期の再検討～ナシ樹の状態等からの防除時期の推定～**
金子 洋平（千葉県農林総合研究センター）

16:30～16:45 **マンゼブ付着量の簡易分析法 ～現場で、誰でも、簡単に、エビデンスメイク～**
正司 和之（佐賀県上場営農センター）

16:45 **閉 会**

問い合わせ先：研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理学研究室 根岸寛光

(e-mail:negishi@nodai.ac.jp)

前日の9月30日（火）には、公益社団法人報農会主催のシンポジウム「植物保護ハイビジョン-2014 激動する農業環境における革新的技術と経営的評価」が‘北とぴあ’つつじホール（東京都北区王子 1-11-1）で開催されます。